

梵文『月灯三昧経』の偈頌再考（1）

——韻律分析を中心に——

岩 松 浅 夫

1 はじめに

『月灯三昧経』(*Samādhirājasūtra*)は、わが国や中国ではそれほど名の知れて有名な、また読誦等もされた経典ではないが、ネパールでは『八千頌般若』(*Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā*)や『華嚴経』の「十地品」(*Daśabhūmika-/Daśabhūmiśvara-sūtra*)と「入法界品」(*Gaṇḍavyūhasūtra*)、そして『法華経』(*Saddharmapuṇḍarīkasūtra*)などとともに「九宝経」の一に数えられ、それだけ重要視されてきた経典である。この『月灯三昧経』は、経としてはそれ程大部なものではないが、その中には多数の、具体的には二千を遥かに超える偈頌が含まれ、また特に梵本に拠れば、それらの偈頌にはこれまた優に二十を超える多種多様な韻律 (*metre*) が用いられている。

その『月灯三昧経』(梵本)の偈頌、特にそこで用いられている韻律について、筆者はかつて採上げて論じたことがある¹⁾。ただし、とは言っても、そのときの筆者は最初からその同経の偈頌や特に韻律を目的に研究等を行ったということではなくて、実は別のことを調べるために言わば付随的な形で同経のページも繰っていたところが、偶々その偈頌、就中そこ(偈頌)で用いられている韻律に大いに興味を惹かれ、少しく研究らしきものを行って、その際に気付いたことを基に私見を公にしたというわけである。具体的には、該

(2)

偈頌には前述のように 20 種以上の様々な韻律が用いられているが、筆者の力の及ぶ範囲でそれらを同定 (identify) するとともに、そこには通常のサンスクリットからすればそれ程一般的ではないと思われるもの²⁾ も含まれていた——それも、唯 1 つだけではなく基本型だけでも 2 種類迄も——ので、その件も併せて報告を行ったということである。という次第で、筆者としてはそれが果されれば能事畢るということで、同経については当の偈頌や韻律のことも含めてそれ以上関与するつもりはなかったのであるが、これも偶まあることが原因でそれらについて更めて調査し直してみたところが、先の筆者の結論等には幾つか改めるべき点があり、またそのこととは別に、それらの特に韻律に関してはいろいろと再検討さるべき課題及び興味深いこと等が残され、或いは隠されていることが判明した。そこでここではそのようなことからの幾つかについて述べてみることにしたい。

なお、この『月灯三昧経』の梵本に関しては、これ迄に、完本即ち首尾一貫したものとしては Dutt 及び Vaidya 両氏によるものが計 2 種存するが³⁾、それ以外にも、部分的には幾つかの章が個別に何人かの学者によってそれぞれ出版されている。具体的には、Dās と Vidyābhūshan, Régamey, Cüppers, そして松濤誠廉氏等によるものがそれであるが⁴⁾、その中、特に本稿の言わば最大の課題でもある本経における韻律との関係ということ言えば、後者の中の特に Dās と Vidyābhūshan のものを除く Régamey 等の 3 者の書——若しくは、論文——の中では、当該の部分に関してのみではあるが、多かれ少なかれ韻律への言及やその考察等のことはなされている⁵⁾。実は、そのことは筆者も承知はしていたのであるが、ただ、先の筆者の論考では、経全体における偈頌のあり方やその韻律如何ということを目的にしたために、またもう一つにはそれに加えて紙数の制限等ということもあって、それらの個別的な研究や指摘等については一切言及しなかった (と言うよりも、し得なかつた)。そして、ある面ではそれも已むを得ず、またそれ程差支えあるまいとも筆者自身は考えているのであるが⁶⁾、序で乍らそのこともここで付記しておきたい⁷⁾。

2 各章内の偈頌数とその韻律

さて、梵文の『月灯三昧経』は40の章に分れているが、それらの中には、第39章を別にすれば、冒頭の言わば帰敬偈と巻末の縁起法頌迄含めて、筆者の算定では計2,322½の偈頌が含まれている⁸⁾。今、それら各章中の偈頌の数とそこで用いられている韻律名を掲げれば、次の如くなるであろう⁹⁾。

[凡 例]

- ① 『月灯三昧経』の梵本には、前述のように完本としてはDuttとVaidyaによる2つの刊本が存するが(それらは、以下では‘D’及び‘V’とそれぞれ略記することにする)、ここでは、便宜上Vaidya刊本を基に、本経の偈頌のあり方について考察を図ることにした。そのVaidya刊本では、ギルギット写本に存するものを言わば主文に、それにはない対校したA、B両写本のみ(増加した)部分は「付録」(appendix)として段落毎に通し番号を付して巻末に纏めて掲げ(因みに、Dutt刊本はそれらを脚注で示している)、またそこ——増加部分——に現れる偈にも通し番号を付けて表すという方法を採用しているが、ここでも、Vaidya刊本に倣って全体をそのような主文と増加部分の2つに分け、偈の表し方等についてもVaidya刊本の仕方をそのまま襲用することにした。
- ② そのVaidya刊本でも、それが少数の場合には、A、B両写本のみ(増加部分)の偈頌が脚注で示されている場合がある。そのようなものについては、それが現れる箇所に応じて、上の(段落を表す)番号の箇所の後に(その番号にa、b、c…の記号を添えた項を別に立てて)別掲することにした。
- ③ 以下の表では、先ず最初に章の番号¹⁰⁾とその標題を掲げ、次いで偈頌は各章毎に一連のものは1つに纏めて、そのような一連のものが同じ章内に幾つかある場合には1)、2)、3)…の番号(記号)を付けて区別し(上の②の場合もそれに準じる)、偈頌が1か所だけの場合にも1)の番号だけは付けた。更に、同じ一連の偈頌の中で異なった韻律のものが現れる場合には、その順に①②③…の番号(記号)を付けて区別し(したがって、同じ韻律が〔間を置いて〕繰返される場合には、同じ名前のもものが重複して現れることになる。ただし、最初の1.の1)と2)の場合だけは1偈毎に同じ韻律が繰返されるため、煩を懼れて同じ韻律のものは1つに纏めて表すことにした)、韻律が1種類だけの場合にも同様に①の番号だけは付けて表すことにした。また、1)、2)、3)…の各項にはその段落内の偈頌の総数と韻律の種類(名称)、そして①②③…にはそれら個々の韻律名とそれによる偈の数及びそれら各偈の

(4)

所在箇所を示す両刊本のページ数を（必要に応じて注記的なことがら等も加えて）、それぞれ記した。

- ④ 同様に、以下の表に掲げた韻律名は基本的には Apte の「韻律表」に拠るが、本経の偈頌の中にはそこには不見の韻律で著されたものも幾つか見られる¹¹⁾。そこで、それらの韻律に関しては、ここでは（名称を直接知り得ないので、已むを得ず）名前ではなく *gana* の形で表すことにした¹²⁾（具体的には、‘*tt nrg*’ 及び ‘*ms jbh g*’）として表した2つがそれということになる¹³⁾。
- ⑤ また、本経の偈頌の中には、（同定された）韻律本来の型（長短調など）からすると不規則な形のものも多く、それらの中の幾つかは韻律名に ‘proto-’ の語または名を冠して呼んだ方がより適切な（と思われる）ものであったり¹⁴⁾、中には別の韻律に変わってしまっていると考えられる——考えざるを得ない!?——ようなものすら存する。そのような不規則形を巡っての問題の中、先ず韻律の名称については（‘proto-’ の語を付けるか否か等で2つを）区別せず、また、例えば長音が短音2つに分裂（*resolve or split*）し反対に短音2つが長音に融合（*contract or fuse*）しているような、仏教梵語の偈頌では比較的一般的で類見する（と認められる）もの、或いは単に母音の長短の違い程度の比較的軽微な（と考えられる）もの等は特に採上げて注意はしなかったが、やや重大で看過し得ないと思われるような場合や、また Apte の「韻律表」に別の韻律名が掲げられている¹⁵⁾ ようなものについては、その旨を注記や指摘することにした。例えば、[*puṣpitaḡra* など] 奇数詩句なのに偶数詩句の形をし、反対に偶数詩句なのに奇数詩句の形をしているような場合にはその詩句にそれぞれ ‘= even’ 若しくは ‘= odd’ と注記し、また（連続した）2つの位置の音節の長短が逆 [metathesized] になっている場合にはその位置を斜線を挟んだ2数で表してその後 ‘meta.’ と記した、等々。
- ⑥ 同じく、本経の偈頌の中には、一部は上の⑤で指摘した場合の件も含めて、同じ偈の中で複数の韻律が用いられている、言わば混合韻律（*mixed or complex metres*）で構成されている（と考えられる）ものも見られる。その、例えば *triṣṭubh-jagatī* 以外の（名称が知られない）韻律の称呼については、（他に適当な方法がないため）詩句数の多い方の韻律名に拠り、また同数の場合は状況に応じて適宜判断して判定する——どちらかの名前にする——ことにした。
- ⑦ 以下の3つは各韻律の個別的なことがらになるが、先ず、前の⑥でも触れた *triṣṭubh-jagatī* はここでは広義の、つまりその中に4詩句とも同じ *indravajrā* など、また *indravajrā* と *upendravajrā*、若しくは *indravaṃśa* と *vaṃśastha* がそれぞれ混在する *triṣṭubh* 及び *jagatī* の2種の *upajātī* を含むもの（の）ことを言う（後の2つの *upajātī* の内、以下、混同を避けるため、本稿では前者の *indravajrā* と *upendravajrā* から成る *triṣṭubh* の *upajātī* には（1）、また後者の *indravaṃśa* と *vaṃśastha* に依る *jagatī* のそれには（2）の番号〔記号〕をそれぞれ付けて、区別することにする）。また、その広義の *triṣṭubh-jagatī* の中にそれの一部である *indravajrā* 等が含まれる場合には、そ

のことも指示することにした。

- ⑧ 同様に, *utthāpanī* は頭音の長音が短音2つに分裂すると *pramitākṣarā* という別の韻律名を有することになるが, 本稿では両者を併せて——4詩句共が後者の *pramitākṣarā* のみの場合も含めて——前者の *utthāpanī* の名で呼ぶ(表す)ことにした¹⁶⁾。またそれらの中に狭義の(4詩句共同じ) *utthāpanī* または *pramitākṣarā* が含まれる場合には, その旨指示することにした。
- ⑨ 本経の偈頌の中には, 形式即ち条件的に厳密に解せば *mātrāsamaka* であるが, しかし少し仔細に見ると, *dodhaka* に上述の分裂或いは融合が繰返されてのその結果と見得る様相を呈しているものがある。それらに対しては, その形式または条件的には *mātrāsamaka* と見るべきで, またそうした方が無難で間違いもないであろうが¹⁷⁾, ここではそのようなものも, 少なくとも *dodhaka* としての本来の型がそこに保存されている限りは, *dodhaka* と見, またそう判定することにした。
- ⑩ その他, Dutt 刊本と Vaidya 刊本的一方にだけ当嵌ったり適用されるものやことである場合には, そのことも(括弧で指示するなどして)示すことにした。
- ⑪ 参考のため, また上掲の偈頌の総数の根拠を示すため, ①に記した主文の部分と増加部分の末尾にはそれぞれ筆者の算定した各章毎の偈頌数(初めに章の番号, 次いで [] の中にその章の偈頌数を示す)とその合計, また後者の増加部分の最後に全体の総数も掲げることにした。

A. 主文部分

1. *nidānaparivarta*¹⁸⁾

1) 10 vv. (2 different metres = śloka, *puṣpītāgrā* [alternating with each other])

① śloka (5 vv.=D vv. 15, 17, 19, 21, 23, V vv. 1, 3, 5, 7, 9; D 11-3, V 2-3)

② *puṣpītāgrā* (5 vv.=D vv. 16, 18, 20, 22, 24, V vv. 2, 4, 6, 8, 10 [20 (V 6): 6 pādas; 16a (V 2a)(=even), 18c (V 4c), 20ab (V 6ab), 23a (V 9a), 24c (V 10c): irreg.]; D 11-3, V 2-3)

2) 5 vv. (2 different metres = śloka, *puṣpītāgrā* [alternating with each other])

① śloka (2 vv.=D vv. 25, 27, V vv. 11, 13; D 14, V 4)

② *puṣpītāgrā* (3 vv.=D vv. 26, 28-9, V vv. 12, 14-5 [26b (V 12b): irreg.]; D 14-5, V 4)

2. *śāleṅdrarājapūrvayogaparivarta*

(6)

1) 30 vv. (3 different metres=puṣpītāgrā, śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① puṣpītāgrā (1 v.=D v. 1, V v. 1; D 26, V 8)
- ② śloka (3 vv.=D vv. 2-4, V vv. 2-4; D 26, V 8)
- ③ triṣṭubh-jagatī (26 vv.=D vv. 5-30, V vv. 5-30 [5, 17-20, 29=upajāti (1), 13=indravajrā, 26c=(t t n r g); 8d (V only), 21a: irreg.]; D 26-32, V 8-12)

3. bhūtaguṇavarṇaprakāśanaparivarta

1) 17 vv. (1 metre=puṣpītāgrā)

- ① puṣpītāgrā (17 vv.=D vv. 1-17, V vv. 1-17 [4b, 5b, 12a, 16d: irreg.]; D 35-40, V 13-6)

2) 22 vv. (3 different metres = śloka, puṣpītāgrā, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (13 vv.=D vv. 18-30, V vv. 18-30 [28bd, 30bd: irreg.]; D 40-2, V 16-7)
- ② puṣpītāgrā (4 vv.=D vv. 31-4, V vv. 31-4 [32b, 32d (=odd), 37b: irreg.]; D 42-3, V 17)
- ③ triṣṭubh-jagatī (1 v.=D v. 35, V v. 35; D 43, V 17)
- ④ puṣpītāgrā (4 vv.=D vv. 36-9, V vv. 36-9 [37b: irreg.]; D 43-4, V 17-8)

4. buddhānusmṛtiparivarta

1) 25 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (25 vv.=D vv. 1-25, V vv. 1-25 [2, 5=upajāti (1), 9=upajāti (2), 21=vamśastha, 16c (V only)=(t t n r g); 16d: irreg.]; D 46-53, V 19-22)

5. ghoṣadattaparivarta

1) 11 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (11 vv.=D vv. 1-11, V vv. 1-11 [4-6=upajāti (1), 9=upajāti (2)]; D 57-9, V 24-5)

2) 17 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (17 vv.=D vv. 12-28, V vv. 12-28 [19=upajāti (1), 25

=indravaṃśa; 15a=(*t t n r g*); D 63-6, V 26-9)

6. samādhiparivarta

1) 25 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (25 vv.=D vv. 1-25, V vv. 1-25 [4, 7, 21=upajāti (2), 10, 15-6=upajāti (1); 4a, 21a: irreg.]; D 68-75, V 30-4)

7. trikṣāntyavatāraparivarta

1) 38 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (38 vv.=D vv. 1-38, V vv. 1-38 [1, 21, 29, 38=upajāti (2), 8=upajāti (1); 1d, 22b, 25d (V only): irreg.]; D 77-86, V 35-40)

8. abhāvasamudgataparivarta

1) 12 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (12 vv.=D vv. 1-12, V vv. 1-12 [5=indravajrā]; D 91-3, V 42-3)

9. gambhīradharmakṣāntiparivarta

1) 66 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (66 vv.=D vv. 1-66, V vv. 1-66 [1, 18, 22, 32, 40, 47, 52, 57, 62=upajāti(1), 20, 35=upendravajrā, 38=vaṃśastha, 43=upajāti(2), 51=indravajrā; 2b, 23ab, 26b, 46a: irreg.]; D 97-112, V 44-53)

10. purapraveśaparivarta

1) 90 vv. (2 different metres=puṣpitaḡrā, dodhaka)

- ① puṣpitaḡrā (75 vv.=D vv. 1-75, V vv. 1-75 [4a (=even), 4b, 6c, 7b, 7d (V only), 11d, 12a, 16c, 20b, 26a, 29a, 33c, 47a, 49a, 50b (=odd), 58b, 59b, 62ab, 66bd, 68a (=even), 72b, 72c (=even): irreg.]; D 125-44, V 55-65)
- ② dodhaka (1 v.=D v. 76, V v. 76 [a=svāgatā; c: irreg.]; D 144, V 65)
- ③ puṣpitaḡrā (14 vv.=D vv. 77-90, V vv. 77-90 [87d (V only): irreg.]; D 144-8, V 65-7)

11. sūtradhāraṇaparivarta

(8)

1) 12 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (12 vv.=D vv. 1-12, V vv. 1-12 [4=upajāti (2); 1d (V only): irreg.]; D 151-4, V 68-70)

2) 51 vv. (3 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī, puṣpitaḡrā)

① śloka (20 vv.=D vv. 1-20, V vv. 13-32 [17a (V 29a): irreg.]; D 155-7, V 70-1)

② triṣṭubh-jagatī (11 vv.=D vv. 21-31, V vv. 33-43; D 157-60, V 71-3)

③ puṣpitaḡrā (20 vv.=D vv. 32-51, V vv. 44-63 [32ad (V 44ad), 35a (V 47a), 37c (V 49c): irreg.]; D 160-6, V 73-5)

12. samādhyanusīkṣaṇāparivarta

1) 20 vv. (1 metre=āryā)

① āryā (20 vv.=D vv. 1-20, V vv. 1-20 [many pādas irreg.]; D 169-73, V 76-8)

13. samādhinirdeśaparivarta

1) 34 vv. (3 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī, puṣpitaḡrā)

① śloka (8 vv.=D vv. 1-8, V vv. 1-8; D 175-6, V 79)

② triṣṭubh-jagatī (upajāti (2)). 1 v.=D v. 9, V v. 9; D 176, V 80)

③ puṣpitaḡrā (6 vv.=D vv. 10-5, V vv. 10-5 [10ab, 11b, 13b, 13c (=even), 13d (6/7 meta.): irreg.]; D 176-7, V 80)

④ śloka (19 vv.=D vv. 16-34, V vv. 16-34 [16b: irreg.]; D 177-9, V 80-2)

14. smītasamdarśanaparivarta

1) 95 vv. (6 different & 1 unknown metres=triṣṭubh-jagatī, śloka, puṣpitaḡrā, rathoddhatā, bhāminī, utthāpanī & (t t n r g))

① triṣṭubh-jagatī (5 vv.=D vv. 1-5, V vv. 1-5 [2, 5=indravaṃśa]; D 180-1, V 83-4)

② (t t n r g) (4 vv.=D vv. 6-9, V vv. 6-9 [6ab=triṣṭubh-jagatī (a: vaṃśastha, b: upendravajrā); 8a: irreg.]; D 181-2, V 84)

③ śloka (15 vv.=D vv. 10-24, V vv. 10-24; D 182-4, V 84-5)

- ④ puṣpītāgrā (9 vv.=D vv. 25-33, V vv. 25-33 [25bd, 29d (=odd), 33b, 33c (6/7 meta.): irreg.]; D 184-6, V 85-6)
- ⑤ (*t t n r g*) (10 vv.=D vv. 34-43, V vv. 34-43; D 186-8, V 86-7)
- ⑥ rathoddhatā (33 vv.=D vv. 44-76, V vv. 44-76 [52d, 69b, 72b (=vaṃśastha ?), 74a: irreg.]; D 188-95, V 88-92)
- ⑦ bhāminī (5 vv.=D vv. 77-81, V vv. 77-81 [77a=uṣitā, 80a=acyuta; 81a: irreg.]; D 196-7, V 92)
- ⑧ utthāpanī (14 vv.=D vv. 82-95, V vv. 82-95 [83, 84=pramitākṣarā, 87=utthāpanī; 84b (V only), 86cd, 91b, 94d: irreg.]; D 197-200, V 92-4)

15. smitavyākaraṇaparivarta

1) 17 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (17 vv.=D vv. 1-17, V vv. 1-17 [6, 10, 14=upajāti (1), 11-2=vaṃśastha, 15=upajāti (2); 7b (7/8 meta.): irreg.]; D 201-5, V 95-7)

16. pūrvayogaparivarta

1) 31 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (31 vv.=D vv. 1-31, V vv. 1-31 [3=indravaṃśa, 7, 21-4, 28, 30=upajāti (1); 10a, 23b: irreg.]; D 206-14, V 98-102)

17. bahubuddhanirhārasamādhimukhaparivarta

1) 168 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (168 vv.=D vv. 1-168, V vv. 1-168 [1, 4-5, 8-9, 13, 15, 17, 21-2, 28, 30, 32, 48, 53, 55, 66, 81, 84, 131, 133, 140, 146, 153, 157, 162=upajāti (1), 3, 6-7, 10-2, 14, 18-20, 58, 61, 67, 144, 151, 156=indravajrā, 16=upendravajrā, 34, 94, 96, 98, 102=upajāti (2); 80a, 81b (3/4 meta.), 130b (3/4 meta.), 131a, 150a (2/3 meta.), 164c: irreg.]; D 220-62, V 104-26)

18. samādhyanuparindanāparivarta

1) 56 vv. (2 different metres=śloka, puṣpītāgrā)

(10)

- ① śloka (4 vv.=D vv. 1-4, V vv. 1-4 [3b: irreg.]; D 263-4, V 127)
- ② puṣpitaḡrā (12 vv.=D vv. 5-16, V vv. 5-16 [10a, 12a (6/7 meta.), 13a, 14c, 15b, 16d: irreg.]; D 264-7, V 127-9)
- ③ śloka (40 vv.=D vv. 17-56, V vv. 17-56; D 267-72, V 129-31)

19. acintyabuddhadharmanirdeśaparivarta

1) 21 vv. (1 metre=dodhaka)

- ① dodhaka (21 vv.=D vv. 1-21, V vv. 1-21 [4b=svāgatā]; D 276-80, V 132-5)

20. indraketuḡhvajarājarivarta

1) 11 vv. (1 metre=rathoddhatā)

- ① rathoddhatā (11 vv.=D vv. 1-11, V vv. 1-11; D 283-6, V 136-7)

21. pūrvayogaparivarta

1) 30 vv. (1 metre=rathoddhatā)

- ① rathoddhatā (30 vv.=D vv. 1-30, V vv. 1-30 [19-20: 6 pādas; 10b, 17c (V only), 20d, 21c, 25b, 26b=lālinī; 4c: irreg.]; D 287-95, V 138-42)

22. tathāgatakāyanirdeśaparivarta

1) 25 vv. (1 metre=śloka)

- ① śloka (25 vv.=D vv. 1-25, V vv. 1-25; D 298-301, V 143-5)

2) 14 vv. (1 metre=śloka)

- ① śloka (14 vv.=D vv. 26-39, V vv. 26-39 [26-7: 6 pādas]; D 302-4, V 146)

23. tathāgatācintyanirdeśaparivarta

1) 13 vv. (1 metre=śloka)

- ① śloka (13 vv.=D vv. 1-13, V vv. 1-13 [v. no. 13 is dropped (D only)]; D 310-2, V 148-9)

24. pratisaṅḡvidavatāraparivarta

1) 67 vv. (1 metre=śloka)

- ① śloka (67 vv.=D vv. 1-68 [v. no. 8 lacks and jumps up from 7 to 9], V vv. 1-67 [39c (V 38c): irreg.]; D 314-23, V 150-4)

25. anumodanāparivarta

1) 15 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (15 vv.=D vv. 1-15, V vv. 1-15 [2-3=indravajrā, 4, 7=upajati (1); 6d (V only): irreg.]; D 325-8, V 155-7)

26. dānānuśaṃsāparivarta

1) 8 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (4 vv.=D vv. 1-4, V vv. 1-4 [3b (V only): irreg.]; D 330-1, V 158)
② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 5-8, V vv. 5-8; D 331, V 158-9)

27. śīlanirdeśaparivarta

1) 6 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (3 vv.=D vv. 1-3, V vv. 1-3 [3a: irreg.]; D 332, V 160)
② triṣṭubh-jagatī (3 vv.=D vv. 4-6, V vv. 4-6; D 333, V 160)

28. daśānuśaṃsāparivarta

1) 6 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (3 vv.=D vv. 1-3, V vv. 1-3; D 334, V 161)
② triṣṭubh-jagatī (3 vv.=D vv. 4-6, V vv. 4-6; D 335, V 161)

2) 10 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (5 vv.=D vv. 7-11, V vv. 7-11; D 336, V 162)
② triṣṭubh-jagatī (5 vv.=D vv. 12-6, V vv. 12-6; D 337-8, V 162)

3) 8 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (4 vv.=D vv. 17-20, V vv. 17-20; D 338-9, V 163)
② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 21-4, V vv. 21-4; D 339, V 163)

4) 9 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (5 vv.=D vv. 25-9, V vv. 25-9; D 340-1, V 164)
② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 30-3, V vv. 30-3; D 341-2, V 164-5)

5) 7 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

- ① śloka (4 vv.=D vv. 34-7, V vv. 34-7; D 342-3, V 165)
② triṣṭubh-jagatī (3 vv.=D vv. 38-40, V vv. 38-40; D 343-4, V 165)

(12)

6) 9 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

① śloka (5 vv.=D vv. 41-5, V vv. 41-5; D 344-5, V 166)

② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 46-9, V vv. 46-9 [48=upajāti (1)]; D 345-6, V 166)

7) 10 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

① śloka (6 vv.=D vv. 50-5, V vv. 50-5; D 347, V 167)

② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 56-9, V vv. 56-9 [59=upajāti (1); 56d (7/8 meta.): irreg.]; D 347-8, V 167)

8) 10 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

① śloka (4 vv.=D vv. 60-3, V vv. 60-3; D 349, V 168)

② triṣṭubh-jagatī (6 vv.=D vv. 64-9, V vv. 64-9 [66=upajāti (1)]; D 349-51, V 168-9)

9) 7 vv. (2 different metres=śloka, puṣpitaḡrā)

① śloka (3 vv.=D vv. 70-2, V vv. 70-2; D 351, V 169)

② puṣpitaḡrā (4 vv.=D vv. 73-6, V vv. 73-6 [73b, 75b: irreg.]; D 352, V 169-70)

10) 6 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

① śloka (3 vv.=D vv. 77-9, V vv. 77-9; D 353, V 170)

② triṣṭubh-jagatī (3 vv.=D vv. 80-2, V vv. 80-2; D 354, V 170)

11) 1 v. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (1 v.=D v. 83, V v. 83 [d (D only)=svāgatā; bc: irreg.]; D 356, V 171)

29. tejagunaṛajaparivarta

1) 116 vv. (2 different metres=utthāpanī, moṭanaka)

① utthāpanī (35 vv.=D vv. 1-35, V vv. 1-35 [2, 5, 8, 12, 15-7, 21 = pramitākṣarā, 8ab=toṭaka; 20a, 26a, 30d, 31d, 35d: irreg.]; D 357-67, V 172-7)

② moṭanaka (or toṭaka ? 1 v.=D v. 36, V v. 36 [bc=toṭaka]; D 367, V 177)

- ③ utthāpanī (80 vv.=D vv. 37-116, V vv. 37-116 [45-8, 53-6, 59-61, 67, 85-6, 100, 106=pramitākṣarā, 76, 79-80=utthāpanī, 49a=toṭaka; 43c, 52c, 54c, 72c, 83a, 84ab, 93a, 99b: irreg.]; D 367-90, V 177-87)

30. anuśaṃsāparivarta

- 1) 10 vv. (1 metre=mālinī)

① mālinī (10 vv.=D vv. 1-10, V vv. 1-10 [8a: irreg.]; D 391-4, V 188-9)

31. sarvadharmasvabhāvanirdeśaparivarta

- 1) 30 vv. (1 unknown metre= (*m s j bh g g*))

① (*m s j bh g g*) (30 vv.=D vv. 1-30, V vv. 1-30 [2b, 6ac, 12b, 20b, 24b (10/11 meta.), 27c, 29d (12/13 meta.), 30b: irreg.]; D 395-403, V 190-4)

32. sūtradhāraṇānuśaṃsāparivarta

- 1) 280 vv. (2 different & 1 unknown metres=śloka, mālinī & (*t t n r g*))

① śloka (163 vv.=D vv. 1-163, V vv. 1-163 [26bc, 45a (V only), 51b (V only), 53a (V only), 68b (V only): irreg.]; D 405-28, V 195-206)

② (*t t n r g*) (41 vv.=D vv. 164-204, V vv. 164-204 [167d, 172a, 177b, 180c, 194b, 196b, 198b: irreg.]; D 428-40, V 206-11)

③ mālinī (1 v.=D v. 205, V v. 205 [c: irreg.]; D 440-1, V 211)

④ (*t t n r g*) (4 vv.=D vv. 206-9, V vv. 206-9; D 441-2, V 211-2)

⑤ śloka (66 vv.=D vv. 210-75, V vv. 210-75 [244d, 256b (V only): irreg.]; D 442-51, V 212-6)

⑥ (*t t n r g*) (5 vv.=D vv. 276-80, V vv. 276-80 [276a=triṣṭubh-jagatī (īndravajrā)]; D 452-3, V 216-7)

33. kṣemadattaparivarta

- 1) 42 vv. (1 metre=śloka)

① śloka (42 vv.=D vv. 1-42, V vv. 1-42 [41b: irreg.]; D 462-7, V 220-2)

34. jñānāvātīparivarta

- 1) 52 vv. (2 different metres=triṣṭubh-jagatī, śloka)

- ① triṣṭubh-jagatī (3 vv.=D vv. 1-3, V vv. 1-3; D 475, V 225)
- ② śloka (7 vv.=D vv. 4-10, V vv. 4-10 [10a-b: caesura irreg.]; D 476, V 225-6)
- ③ triṣṭubh-jagatī (2 vv.=D vv. 11-2, V vv. 11-2; D 476-7, V 226)
- ④ śloka (4 vv.=D vv. 13-6, V vv. 13-6; D 477, V 226)
- ⑤ triṣṭubh-jagatī (36 vv.=D vv. 17-52, V vv. 17-52 [18, 24, 44, 45, 52=upajāti (1), 20, 22, 36, 37=upajāti (2); 35a (9/10 meta.): irreg.]; D 477-86, V 226-31)

35. supuṣpacandraparivarta

- 1) 11 vv. (2 different metres=triṣṭubh-jagatī, śārdūlavikrīḍita)
 - ① triṣṭubh-jagatī (5 vv.=D vv. 1-5, V vv. 1-5; D 493-4, V 234)
 - ② śārdūlavikrīḍita (6 vv.=D vv. 6-11, V vv. 6-11 [v. no. 11 is dropped (D only)]; D 494-6, V 234-5)
- 2) 3 vv. (1 metre=śārdūlavikrīḍita)
 - ① śārdūlavikrīḍita (3 vv.=D vv. 12-4, V vv. 12-4; D 497, V 235-6)
- 3) 19 vv. (3 different & 1 unknown metres=śloka, triṣṭubh-jagatī, śārdūlavikrīḍita & (t t n r g))
 - ① śloka (5 vv.=D vv. 15-9, V vv. 15-9; D 501-2, V 237)
 - ② triṣṭubh-jagatī (1 v.=D v. 20, V v. 20 [d=(t t n r g)]; D 502, V 237)
 - ③ (t t n r g) (8 vv.=D vv. 21-8, V vv. 21-8 [21b: irreg.]; D 502-5, V 237-8)
 - ④ śārdūlavikrīḍita (5 vv.=D vv. 29-33, V vv. 29-33 [33: 5 pādas]; D 505-6, V 238-9)
- 4) 46 vv. (2 different & 1 unknown metres=triṣṭubh-jagatī, śārdūlavikrīḍita & (t t n r g))
 - ① (t t n r g) (25 vv.=D vv. 34-58, V vv. 34-58 [34cd, 42d, 51d, 56a, 58c=triṣṭubh-jagatī (34c, 42d: indravajrā; 34d, 51d: upendravajrā; 56a, 58c: indravamśa); 34b, 35b, 40a (D only), 40b, 44d, 48c, 49b, 50ac, 52d, 53b, 54a, 57b, 58d: irreg.]; D 510-9, V 240-4)

- ② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 59-62, V vv. 59-62 [62=indravaṃśa, 59d, 60cd, 61a= (t t n r g); 59d: irreg.]; D 519, V 244)
- ③ śārdūlavikrīḍita (3 vv.=D vv. 63-5, V vv. 63-5 [64c (V only): irreg.]; D 519-20, V 244-5)
- ④ (t t n r g) (1 v.=D v. 66, V v. 66; D 520-1, V 245)
- ⑤ śārdūlavikrīḍita (3 vv.=D vv. 67-9, V vv. 67-9 [68d: irreg.]; D 521-2, V 245)
- ⑥ triṣṭubh-jagatī (1 v.=D v. 70, V v. 70 [d= (t t n r g)]; D 522, V 245)
- ⑦ (t t n r g) (7 vv.=D vv. 71-7, V vv. 71-7 [72a, 73a, 75a, 77ad: irreg.]; D 522-4, V 245-6)
- ⑧ śārdūlavikrīḍita (2 vv.=D vv. 78-9, V vv. 78-9; D 525, V 246-7)
- 5) 44 vv. (2 different & 1 unknown metres=triṣṭubh-jagatī, śārdūlavikrīḍita & (t t n r g))
- ① triṣṭubh-jagatī (28 vv.=D vv. 80-107, V vv. 80-107 [94, 105-7=upajāti (1), 102=upajāti (2), 104=indravajrā; 81d= (t t n r g)]; D 526-37, V 247-50)
- ② śārdūlavikrīḍita (8 vv.=D vv. 108-15, V vv. 108-15; D 537-9, V 251)
- ③ (t t n r g) (8 vv.=D vv. 116-23, V vv. 116-23 [121d (V only)=triṣṭubh-jagatī (upendravajrā); 116d, 120bc: irreg.]; D 539-42, V 252-3)

36. śīlaskandhanirdeśaparivarta

- 1) 69 vv. (2 different & 1 unknown metres=triṣṭubh-jagatī, śārdūlavikrīḍita & (t t n r g))
- ① (t t n r g) (8 vv.=D vv. 1-8, V vv. 1-8 [7a=śruti, 7c, 8d=triṣṭubh-jagatī (7c: indravaṃśa, 8d: upendravajrā), 8b=smṛti; 4a, 6b, 7b, 8c: irreg.]; D 543-5, V 254-5)
- ② triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 9-12, V vv. 9-12 [12=upajāti (1)]; D 546-7, V 254-5)
- ③ (t t n r g) (1 v.=D v. 13, V v. 13 [c=triṣṭubh-jagatī (indravajrā); d:

irreg.]; D 547, V 255)

- ④ triṣṭubh-jagatī (27 vv.=D vv. 14-40, V vv. 14-40 [14=upajāti (1), 23, 29, 31, 37=upajāti (2), 17a, 39c, 40a= (t t n r g); 21b: irreg.]; D 547-53, V 256-9)
- ⑤ (t t n r g) (9 vv.=D vv. 41-9, V vv. 41-9 [44b, 48a=triṣṭubh-jagatī (44b: upendravajrā; 48a: indravajrā), 47d=śruti, 48b=smṛti; 41d, 47b: irreg.]; D 553-6, V 259-60)
- ⑥ śārdūlavikrīḍita (20 vv.=D vv. 50-69, V vv. 50-69 [58b, 60a: irreg.]; D 556-61, V 260-3)

37. yaśaḥprabhavarivarta

1) 104 vv. (1 metre=dodhaka)

- ① dodhaka (104 vv.=D vv. 1-104, V vv. 1-104 [64a=svāgatā; 9a (= (j t j l g) → upendravajrā ?), 33c (1/2 meta.), 36b, 41b, 57d, 58d, 77ab: irreg.]; D 563-88, V 264-78)

38. kāyavānmanāḥsaṃvaraparivarta

1) 46 vv. (2 different metres=triṣṭubh-jagatī, utthāpanī)

- ① triṣṭubh-jagatī (36 vv.=D vv. 1-36, V vv. 1-36 [9, 23, 33=upajāti (2); 17d: irreg.]; D 592-601, V 280-4)
- ② utthāpanī (1 v.=D v. 37, V v. 37 [a=triṣṭubh-jagatī (indravajrā)]; D 601, V 284-5)
- ③ triṣṭubh-jagatī (9 vv.=D vv. 38-46, V vv. 38-46 [41=upajāti (1)]; D 601-4, V 285-6)

2) 4 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

- ① triṣṭubh-jagatī (4 vv.=D vv. 47-50, V vv. 47-50 [47=upajāti (2)]; D 606-7, V 287)

3) 6 vv. (1 metre=śloka)

- ① śloka (6 vv.=D vv. 51-6, V vv. 51-6; D 613, V 288-9)

4) 15 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (15 vv.=D vv. 57-71, V vv. 57-71 [64c: irreg.]; D 615-9, V 290-2)

5) 20 vv. (1 metre=utthāpanī)

① utthāpanī (20 vv.=D vv. 72-91, V vv. 72-91 [73, 77, 80, 83, 88=pramitākṣarā; 72ad, 75c, 82b, 89a: irreg.]; D 621-7, V 293-5)

39. [padatrisātanirdeśaparivarta] (no verse)

40. parīndanāparivarta

1) 3 vv. (1 metre=śloka)

① śloka (3 vv.=D vv. 1-3, V vv. 1-3; D 646, V 303)

E. 1) 1 v. (1 metre=āryā)

① āryā (1 v. [a: irreg.]; D 648, V 304)

○各章毎の偈頌数：1 [15], 2 [30], 3 [39], 4 [25], 5 [28], 6 [25], 7 [38], 8 [12], 9 [66], 10 [90], 11 [63], 12 [20], 13 [34], 14 [95], 15 [17], 16 [31], 17 [168], 18 [56], 19 [21], 20 [11], 21 [30], 22 [39], 23 [13], 24 [67], 25 [15], 26 [8], 27 [6], 28 [83], 29 [116], 30 [10], 31 [30], 32 [280], 33 [42], 34 [52], 35 [123], 36 [69], 37 [104], 38 [91], 39 [0], 40 [3], E [1]

○小計：15 + 30 + 39 + 25 + 28 + 25 + 38 + 12 + 66 + 90 + 63 + 20 + 34 + 95 + 17 + 31 + 168 + 56 + 21 + 11 + 30 + 39 + 13 + 67 + 15 + 8 + 6 + 83 + 116 + 10 + 30 + 280 + 42 + 52 + 123 + 69 + 104 + 91 + 0 + 3 + 1=2,066

B. 増加部分

No.1. [=0. prastuti-gāthā ?]¹⁹⁾

1) 12 vv. (3 different metres=śloka, śārdūlavikrīḍita, sragdharā)

① śloka (7 vv.=vv. 1-7 [D vv. 1-7]; V 305, D 3)

② śārdūlavikrīḍita (1 v.=v. 8 [D v. 8]; V 305, D 4)

③ sragdharā (2 vv.=vv. 9-10 [D vv. 9-10]; V 305-6, D 4)

(18)

④ śārdūlavikrīḍita (1 v.=v. 11 [D v. 11]; V 306, D 4)

⑤ sragdharā (1 v.=v. 12 [D v. 12]; V 306, D 5)

No.2. [=0. prastuti-gāthā ?]

1) 30 vv. (7 different metres=triṣṭubh-jagatī, vasantatilakā, puṣpitaḡrā, sragdharā, śloka, aparavaktra, śārdūlavikrīḍita)

① triṣṭubh-jagatī (upajāti (1). 16 vv.=vv. 13-28 [14, 27=indravajrā; 14b (9/10 meta.), 18c, 19a, 21a, 25b (D only), 27a (V only), 27d: irreg.]; V 306-8, D 5-6)

② vasantatilakā (1 v.=v. 29 [d (10/11 meta.): irreg.]; V 308, D 6)

③ puṣpitaḡrā (1 v.=v. 30; V 308, D 6)

④ sragdharā (1 v.=v. 31 [ab: irreg.]; V 308, D 6-7)

⑤ triṣṭubh-jagatī (1 v.=v. 32 [a: irreg.]; V 308, D 7)

⑥ śloka (2 vv.=vv. 33-4; V 308-9, D 7)

⑦ vasantatilakā (1 v.=v. 35 [d: irreg.]; V 309, D 7)

⑧ puṣpitaḡrā (2 vv.=vv. 36-7 [36c, 37a, 37c (V only): irreg.]; V 309, D 7)

⑨ aparavaktra (1 v.=v. 38 [b-c (D only): irreg.]; V 309, D 7)

⑩ śloka (1 v.=v. 39 [d (D only): irreg.]; V 309, D 7)

⑪ puṣpitaḡrā (1 v.=v. 40; V 309, D 7)

⑫ śārdūlavikrīḍita (1 v.=v. 41 [ac: irreg.]; V 309, D 7-8)

⑬ triṣṭubh-jagatī (1 v.=v. 42 [3 pādas=1 pāda lacked ?]; V 309, D 8)

No.3. [=0. prastuti-gāthā ?]

1) 2 vv. (1 metre=śloka)

① śloka (2 vv.=vv. 43-4 [D vv. 13-4]; V 310, D 5)

No.7. [=8. abhāvasamudgataparivarta]

1) 3 vv. (2 different metres=śloka, triṣṭubh-jagatī)

① śloka (2 vv.=vv. 45-6 [45a, 46d (V only): irreg.]; V 312, D 87)

② triṣṭubh-jagatī (1 v.=v. 47 [c: irreg.]; V 312, D 87)

No.9. [=9. gambhīradharmakṣāntiparivarta]

1) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v.=v. 48 [a: irreg.]; V 312-3, D 95)

No.10. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=toṭaka)

① toṭaka (1 v.=v. 49 [d: irreg.]; V 313, D 114)

2) 1 v. (1 metre=vasantatilakā)

① vasantatilakā (1 v.=v. 50; V 313, D 114)

3) 3 vv. (3 different metres=rucirā, haṃsagrīḍā, mañjubhāṣiṇī)

① rucirā (1 v.=v. 51; V 313, D 114)

② haṃsagrīḍā (1 v.=v. 52; V 314, D 115)

③ mañjubhāṣiṇī (1 v.=v. 53; V 314, D 115)

No.10a. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=vegavatī)

① vegavatī (1 v. [a (D only), c: irreg.]; V 54, D 115)

No.11. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 9 vv. (4 different metres=dodhaka, utthāpanī, vegavatī, śārdūlavikrīḍita)

① dodhaka (1 v.=v. 54; V 314, D 116)

② utthāpanī (pramitākṣarā. 1 v.=v. 55 [a=toṭaka]; V 314, D 116)

③ dodhaka (1 v.=v. 56 [c: irreg.]; V 314, D 116)

④ vegavatī (2 vv.=vv. 57-8 [57cd, 58c: irreg.]; V 314-5, D 116)

⑤ śārdūlavikrīḍita (2 v.=vv. 59-60; V 315, D 116-7)

⑥ dodhaka (2 vv.=vv. 61-2 [62a=vitāna; 61a (V only), 61b: irreg.]; V 315, D 117)

No.12. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 6 vv. (2 different metres=dodhaka, utthāpanī)

① dodhaka (3 vv.=vv. 63-5 [65a=vitāna]; V 315-6, D 118)

② utthāpanī (1 v.=v. 66 [c= (t t n r g); d: irreg.]; V 316, D 119)

③ dodhaka (1 v.=v. 67 [c=citrapadā]; V 316, D 119)

(20)

④ utthāpanī (1 v.=v. 68 [d: irreg.]; V 316, D 119)

2) 6 vv. (2 different metres=mātrāsamaka, dodhaka)

① mātrāsamaka (*or* dodhaka ? 1 v.=v. 69; V 316-7, D 120)

② maṇigūṇanikara (1 v.=v. 70; V 317, D 120)

③ dodhaka (4 vv.=vv. 71-4 [71a: irreg.]; V 317, D 120)

3) 1 v. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (1 v.=v. 75 [d: irreg. (*but not* svāgatā)]; V 317, D 120)

4) 14 vv. (2 different metres=dodhaka, svāgatā)

① dodhaka (5 vv.=vv. 76-80 [77cd, 78d, 79ab=svāgatā; 77bc, 80cd: irreg.]; V 318-9, D 121-2)

② svāgatā (1 v.=v. 81 [a=dodhaka]; V 318, D 122)

③ dodhaka (8 vv.=vv. 82-9 [82b, 83a, 84ab, 87d (9/10 meta.), 89d: irreg.]; V 318-9, D 122)

No.13. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 3 vv. (1 metre=puṣpītāgrā)

① puṣpītāgrā (3 vv.=vv. 90-2 [90a, 91a (=even), 92b (V only [misprinting]): irreg.]; V 319-20, D 140)

No.13a. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=puṣpītāgrā)

① puṣpītāgrā (1 v. [b: irreg.]; V 64, D 141)

2) 1 v. (1 metre=puṣpītāgrā)

① puṣpītāgrā (1 v. [b: irreg.]; V 65, D 143)

No.14. [=10. purapraveśaparivarta]

1) 5 vv. (1 known & 1 unknown metres=dodhaka & unidentifiable)

① dodhaka (2 vv.=vv. 93-4 [94b (4/5 meta.): irreg.]; V 320, D 145)

② unidentifiable (1 v.=v. 95 [4 × 4 (morae) × 4 (*but not* mātrāsamaka ?)]; V 320, D 145)

③ dodhaka (2 vv.=vv. 96-7 [v. no. 96 is misprinted with 95]; V 320, D 145)

No.15. [=11. sūtradhāraṇaparivarta]

1) 6 vv. (2 different & 1 unknown metres=śloka, triṣṭubh-jagatī & (*t t n r g*))

① śloka (2 vv.=vv. 98-9; V 320, D 150)

② triṣṭubh-jagatī (upajāti (2)). 1 v.=v. 100 [a: irreg.]; V 320, D 150)

③ śloka (2 vv.=vv. 101-2 [101a: irreg.]; V 320, D 150)

④ (*t t n r g*) (1 v.=v. 103 [c: irreg.]; V 320-1, D 150)

No.16. [=11. sūtradhāraṇaparivarta]

1) 10 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (10 vv.=vv. 104-13 [105: 3 pādas(1 pāda lacked ?);
104-5=indravajrā, 107, 109, 112-3=upajāti (1)]; V 321-2, D 162-3)

No.18. [=17. bahubuddhanirhārasamādhimukhaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (1 v.=v. 114 [b=svāgatā]; V 323, D 215)

2) 1 v. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (1 v.=v. 115; V 323, D 215)

3) 3 vv. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (3 vv.=vv. 116-8; V 323-4, D 216)

No.19. [=17. bahubuddhanirhārasamādhimukhaparivarta]

1) 12 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (12 vv.=vv. 119-30 [119: 6 pādas, 125: 2 pādas (2 pādas
lacked ? V only), 125 + 126: 1 verse (=6 pādas. D); 125: upajāti (2); 124b,
130bcd: irreg.]; V 324-5, D 232-3)

No.19a. [=17. bahubuddhanirhārasamādhimukhaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v.; V 111, D 234)

2) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v.; V 117, D 245)

3) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

(22)

① triṣṭubh-jagatī (1 v. [c: irreg.]; V 119, D 249)

4) 2 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (upajāti (1). 2 vv.; V 126, D 262)

No.22a. [=20. indraketurdhvajarajaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=rathoddhatā)

① rathoddhatā (1 v.; V 137, D 262)

No.23a. [=21. pūrvayogaparivarta]

1) 3 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (3 vv. [D has verse numbers 31-3; 2a (D 32a), 3a (D 33a):
irreg.]; V 142, D 295)

No.24. [=22. tathāgatakāyanirdeśaparivarta]

1) 3 vv. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (3 vv.=vv. 131-3 [D has verse numbers 1-3]; V 328, D 296)

No.25a. [=25. anumodanāparivarta]

1) 3 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (3 vv. [2=upajāti (1)]; V 155, D 325)

No.25b. [=29. tejaguṇarajaparivarta]

1) 1 v. (1 metre=utthāpanī)

① utthāpanī (1 v. [b: irreg.]; V 174, D 361)

2) 1 v. (1 metre=dodhaka)

① dodhaka (1 v. [b=vitāna; d: irreg.]; V 178, D 371)

3) 1 v. (1 metre=utthāpanī)

① utthāpanī (pramitākṣarā. 1 v.; V 178, D 371)

4) 2 vv. (1 metre=utthāpanī)

① utthāpanī (2 vv. [1c, 2c=śruti]; V 179, D 372)

5) 2 vv. (2 different metres=mātrāsamaka, svāgatā)

① mātrāsamaka (1 v. [ab: dodhaka ? d: irreg.]; V 187, D 388)

② svāgatā (1 v. [d: irreg.]; V 187, D 388)

No.25c. [=30. anuṣaṃsāparivarta]

1) 1 v. (1 metre=mālinī)

① mālinī (1 v. [a: irreg.]; V 189, D 394)

No.25d. [=31. sarvadharmasvabhāvanirdeśaparivarta]

1) 2 vv. (1 unknown metre= (*m s j bh g g*))

① (*m s j bh g g*) (2 vv. [1bcd: irreg.]; V 193, D 402)

No.25e. [=32. sūtradhāraṇānuṣaṃsāparivarta]

1) 1 v. (1 metre=śloka)

① śloka (1 v.; V 201, D 417)

2) ½ v. (1 unknown metre= (*t t n r g*))

① (*t t n r g*) (½ v. [b: irreg.]; V 207, D 432)

No.26. [=32. sūtradhāraṇānuṣaṃsāparivarta]

1) 6 vv. (1 unknown metre= (*t t n r g*))

① (*t t n r g*) (6 vv.=vv. 134-9 [135b, 137bc=triṣṭubh-jagatī (indravajrā)]; V 329-30, D 435-6)

No.26a. [=32. sūtradhāraṇānuṣaṃsāparivarta]

1) 1 v. (1 metre=śloka)

① śloka (1 v.; V 213, D 444)

2) 1 v. (1 metre=śloka)

① śloka (1 v. [c: irreg.]; V 215, D 448)

3) 3 vv. (1 metre=śloka)

① śloka (3 vv.; V 215, D 449)

No.28a. [=34. jñānāvātīparivarta]

1) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v. [a: irreg.]; V 230, D 484)

2) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v. [ab: irreg.]; V 230, D 484)

No.31a. [=35. supuṣpacandraparivarta]

(24)

1) 1 v. (1 metre = śārdūlavikrīḍita)

① śārdūlavikrīḍita (1 v. [bc: irreg.]; V 239, D 506)

No.32a. [=35. supuṣpacandraparivarta]

1) 1 v. (1 unknown metre = *(t t n r g)*)

① *(t t n r g)* (1 v. [b=triṣṭubh-jagatī (indravaṃśa); d: irreg.]; V 241, D 512)

*2) 1 v. (1 unknown metre = *(t t n r g)*) *variant reading ?

① *(t t n r g)* (1 v. [a: irreg.]; V 242, D 515)

3) 1 v. (1 unknown metre = *(t t n r g)*)

① *(t t n r g)* (1 v. [c: irr. (or triṣṭubh-jagatī = indravaṃśa ?)]; V 244, D 518)

4) 1 v. (1 unknown metre = *(t t n r g)*)

① *(t t n r g)* (1 v.; V 246, D 523)

No.33. [=35. supuṣpacandraparivarta]

1) 7 vv. (1 known & 1 unknown metres = triṣṭubh-jagatī & *(t t n r g)*)

① triṣṭubh-jagatī (4 vv. = vv. 140-3 [140, 142 = upajāti (2), 143 (misprinted to 142) = upajāti (1); 143c: irreg.]; V 331-2, D 525)

② *(t t n r g)* (2 vv. = vv. 144-5 [144a = triṣṭubh-jagatī (indravaṃśa); 144c, 145bcd: irreg.]; V 332, D 525)

③ triṣṭubh-jagatī (1 v. = v. 146 [d = *(t t n r g)*; d: irreg.]; V 332, D 526)

2) 3 vv. (1 metre = śloka)

① śloka (3 vv. = vv. 147-9; V 332-3, D 526)

No.33a. [=35. supuṣpacandraparivarta]

1) 1 v. (1 metre = triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v.; V 248, D 529)

2) 1 v. (1 metre = triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v.; V 249, D 531)

No.34. [=35. supuṣpacandraparivarta]

1) 9 vv. (1 known & 1 unknown metres = triṣṭubh-jagatī & *(t t n r g)*)

① triṣṭubh-jagatī (7 vv. = vv. 150-6 [150 = indravajrā, 151 = upajāti (1); 154cd,

156a = (*t t n r g*); V 333-4, D 532)

② (*t t n r g*) (1 v.=v. 157 [c=triṣṭubh-jagatī (indravajrā)]; V 334, D 532)

③ triṣṭubh-jagatī (1 v.=v. 158; V 334, D 532)

No.35. [=35. supuṣpacandraparivarta]

1) 32 vv. (6 different & 1 unknown metres=triṣṭubh-jagatī, śārdūlavikrīḍita, vasantatilakā, utthāpanī, dodhaka, rathoddhatā & (*t t n r g*))

① triṣṭubh-jagatī (11 vv.=vv. 159-69 (D fn vv. 1-11) [168 (D 10)=upajāti (1), 165d (D 7d)= (*t t n r g*); 160a (D 2a): irreg.]; V 334-5, D 534)

② (*t t n r g*) (1 v.=v. 170 (D fn v. 12) [d=triṣṭubh-jagatī (indravajrā); a: irreg.]; V 335-6, D 535)

③ triṣṭubh-jagatī (1 v.=v. 171 (D fn v. 13)[d: irreg.]; V 336, D 535)

④ śārdūlavikrīḍita (9 vv.=vv. 172-80 (D fn vv. 14-22) [173c (D 15c), 179d (D 21d): irreg.]; V 336-7, D 535-6)

⑤ vasantatilakā (1 v.=v. 181 (D fn v. 23ab) [d=utthāpanī]; V 337, D 536)

⑥ utthāpanī (7 vv.=vv. 182-8 (D fn v. 23c-26d) [185d (D 25b)=triṣṭubh-jagatī (indravaṃśa); 183ab (V only), 183bc (D 24ab), 187cd (D 26b), 188a (D 26c): irreg.]; V 337-8, D 536)

⑦ dodhaka (1 v.=v. 189 (D fn v. 27ab) [a: irreg.]; V 338, D 536)

⑧ rathoddhatā (1 v.=v. 190 (D fn v. 27cd); V 338, D 536)

No.35a. [=35. supuṣpacandraparivarta]

1) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v.; V 252, D 540)

No.36a. [=38. kāyavānmanaḥsaṃvaraparivarta]

1) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (upajāti (1). 1 v.; V 287, D 606)

No.38. [=38. kāyavānmanaḥsaṃvaraparivarta]

1) 18 vv. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (18 vv.=vv. 191-208 (D fn v. 1-18); V 339-41, D 610-2)

No.38a. [=38. kāyavānmanaḥsaṃvaraparivarta]

1) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (upajāti (1). 1 v.; V 289, D 613)

2) 1 v. (1 metre=triṣṭubh-jagatī)

① triṣṭubh-jagatī (1 v. [bc: irreg.]; V 290, D 615)

No.39. [=38. kāyavānmanaḥsaṃvaraparivarta]

1) 4 vv. (1 metre=utthāpanī)

① utthāpanī (4 vv.=vv. 209–12 [210: 5, 212: 6 pādas (V only. corresponding D=4 + 1, 4 + 2 pādas respectively); 209c, 210c, 211bc, 212b: irreg.]; V 341, D 623)

○各章毎の偈頌数：0 [44], 8 [3], 9 [1], 10 [58], 11 [10], 17 [22], 20 [1], 21 [3], 22 [3], 25 [3], 29 [7], 30 [1], 31 [2], 32 [12½], 34 [2], 35 [59], 38 [25]

○小 計：44 + 3 + 1 + 58 + 10 + 22 + 1 + 3 + 3 + 3 + 7 + 1 + 2 + 12½ + 2 + 59 + 25 = 256½

◎総 計：2,066 + 256½ = 2,322½

『月灯三昧経』梵本の各章に見られる偈頌の内訳・内容については以上の通りであるが、ここでそれらの偈頌で用いられている韻律と各章中における同じ韻律による偈数をその韻律型と共に掲げれば、次のようになるであろう²⁰⁾ (各韻律には便宜的に番号を付け、配列の順序はサンスクリット〔インド文字〕のアルファベット順による。また、偈数の標記の仕方は凡例①のそれに準じ、主文〔ギルギット写本〕以外の増加部分のものは *印を付けて区別することにしたが、同じ韻律が複数の章に亘るような場合には 's' としてそれらの総数も掲げることにした。更に、〔広義の〕 triṣṭubh-jagatī 中に含まれることになる indravajrā や indravamśa、或いは upajāti の (1) (2) などはやや行頭を下げて示し〔したがって、それらを除いたものが狭義の triṣṭubh-jagatī ということになる〕、utthāpanī の場合もそれに準じる。その他、不規則形または混合韻律の一部として 1 詩句 [pāda] のみに現れるものも別出する

ことにした〔したがって、この場合だけは他の韻律の偶数に当るものは詩句数ということになる²¹⁾。また、便宜上これらにも番号を付けて表したが、混同を避けるために#の記号を付けて区別した〕。

- 1) aparavaktra (a, c=---|---|---|_≒; b, d=---|---|---|_≒): 0 [*1]
- 2) āryā (a-b=12+18, c-d=12+15 [morae]): 12 [20], E [1]. s=21
- 3) utthāpanī (---|---|---|_≒×4): 10 [*3], 14 [14], 29 [11+*4], 35 [*7], 38 [21+*4]. s=150+*18=168
- 3-1) utthāpanī (---|---|---|_≒×4): 14 [1]
- 3-2) pramitākṣarā (---|---|---|_≒×4): 14 [2], 29 [24+*1], 38 [5].
s=31+*1=32
- 4) toṭaka (---|---|---|_≒×4): 10 [*1]
- 5) triṣṭubh-jagatī (≒-|---|---|_≒/≒-|---|---|_≒×4): 0 [*18], 2 [26], 3 [1], 4 [25], 5 [28], 6 [25], 7 [38], 8 [12+*1], 9 [66+*1], 11 [23+*11], 13 [1], 14 [5], 15 [17], 16 [31], 17 [168+*17], 21 [*3], 25 [15+*3], 26 [4], 27 [3], 28 [36], 34 [41+*2], 35 [39+*28], 36 [31], 38 [64+*21]. s=699+*105=804
- 5-1) indravajrā (---|---|---|_≒×4): 0 [*2], 2 [1], 8 [1], 9 [1], 11 [*2], 17 [16], 25 [2], 35 [1+*1]. s=22+*5=27
- 5-2) upendravajrā (---|---|---|_≒×4): 9 [2], 17 [1]. s=3
- 5-3) indravamśa (---|---|---|_≒×4): 5 [1], 14 [2], 16 [1], 35 [1]. s=5
- 5-4) vaṃśastha (---|---|---|_≒×4): 4 [1], 9 [1], 15 [2]. s=4
- 5-5) upajāti (1) (---|---|---|_≒/---|---|---|_≒×4): 2 [6], 4 [2], 5 [4], 6 [3], 7 [1], 9 [9], 11 [*4], 15 [3], 16 [7], 17 [26+*2], 25 [2+*1], 28 [3], 34 [5], 35 [4+*3], 36 [2], 38 [1+*2]. s=78+*12=90
- 5-6) upajāti (2) (---|---|---|_≒/---|---|---|_≒×4): 4 [1], 5 [1], 6 [3], 7 [4], 9 [1], 11 [1+*1], 13 [1], 15 [1], 17 [5+*1], 34 [4], 35 [1+*2], 36 [4], 38 [4]. s=31+*4=35

(28)

- 6) dodhaka (---|---|---|_×4): 10 [1+*30], 17 [*5], 19 [21], 22 [*3], 28 [1], 29 [*1], 35 [*1], 37 [104]. $s=127+*40=167$
- 7) puṣpitaḡrā (a, c=---|---|---|_×4; b, d=---|---|---|_×4): 0 [*4], 1 [8], 2 [1], 3 [25], 10 [89+*5], 11 [20], 13 [6], 14 [9], 18 [12], 28 [4]. $s=174+*9=183$
- 8) bhāminī (---|---|---|_×4)²²): 14 [5]
- 9) mañjubhāṣiñī (---|---|---|_×4): 10 [*1]
- 10) mañiḡuṇanikara (---|---|---|_×4): 10 [*1]
- 11) mātrāsamaka (4 × 4 [morae] × 4): 10 [*1], 29 [*1]. $s=*2$
- 12) mālīnī (---|---|---|_×4): 30 [10+*1], 32 [1]. $s=11+*1=12$
- 13) moṭanaka (---|---|---|_×4): 29 [1]
- 14) rathoddhatā (---|---|---|_×4): 14 [33], 20 [11+*1], 21 [30], 35 [*1]. $s=74+*2=76$
- 15) rucirā (---|---|---|_×4): 10 [*1]
- 16) vasantatilakā (---|---|---|_×4): 0 [*2], 10 [*1], 35 [*1]. $s=*4$
- 17) vegavatī (a, c=---|---|---|_×4; b, d=---|---|---|_×4): 10 [*3]
- 18) śārdūlavikrīḡita (---|---|---|_×4): 0 [*3], 10 [*2], 35 [30+*10], 36 [20]. $s=50+*15=65$
- 19) śloka (---|---|---|_×2): 0 [*12], 1 [7], 2 [3], 3 [13+*2], 11 [20+*4], 13 [27], 14 [15], 18 [44], 22 [39], 23 [13], 24 [67], 26 [4], 27 [3], 28 [42], 32 [229+*6], 33 [42], 34 [11], 35 [5+*3], 38 [6], 40 [3]. $s=593+*27=620$
- 20) sragdharā (---|---|---|_×4): 0 [*4]
- 21) svāgatā (---|---|---|_×4): 10 [*1], 29 [*1]. $s=*2$
- 22) haṃsagrīḡā (---|---|---|_×4): 10 [*1]
- 23) (t t n r g) (---|---|---|_×4): 11 [*1], 14 [14], 32 [50+*6 ½], 35 [49+*8], 36 [18]. $s=131+*15 ½=146 ½$
- 24) (m s j bh g g) (---|---|---|_×4): 31 [30+*2=32]

25) unidentifiable: 10 [*1]

#1) acyuta (---|---|---|_×4): 14 [1]

#2) uṣītā (---|---|---|_×4): 14 [1]

#3) citrapadā (---|---|_×4): 10 [*1]

#4) lālinī (---|---|---|_×4): 21 [6 (D 5)]

#5) vitāna (---|---|---|_×4): 10 [*2], 29 [*1]. $s = *3$

#6) śruti (---|---|---|_×4): 29 [*2], 36 [2]. $s = 2 + *2 = 4$

#7) smṛti (---|---|---|_×4): 36 [2]

また、これらの韻律の種類別ということ言えば、1) の aparavaktra と 7) の puṣpitāgrā 及び 17) の vegavati の 3つはそれぞれ奇数詩句 (a, c pāda) と偶数詩句 (b, d pāda) のみが同じ ardhasamavṛtta, また 2) の āryā と 11) の mātrāsamaka が音量 (mātrās = morae) を基にする mātrācchandas で、残りは全て基本的には 4 詩句共同じ形の samavṛtta ということになるであろう²³⁾。

(未完)

注

- 1) 拙稿「梵文『月灯三昧経』の偈頌について」『印度学仏教学研究』第 53 卷第 2 号、平成 17 年 3 月、参照（以下、本稿については、必要に応じて「前稿」と呼ぶことにする）。
- 2) 具体的には、後にも少しく採上げて言及する予定の、(t t n l g) と (m s j b h g g) という Apte の「韻律表」(V. S. Apte, *The Practical Sanskrit-English Dictionary*, Poona 1957, vol. 3, Appendix A: Sanskrit Prosody, esp. 'II: A Classified List of Sanskrit Metres') には掲出されていない 2 つの韻律（型）のことを言う。
- 3) N. Dutt, *Gilgit Manuscripts*, vol. II, pt. I, Srinagar 1941, pts. II-III, Calcutta 1953-4, rep. Delhi 1984; P. L. Vaidya, *Samādhirājasūtra*, Buddhist Sanskrit Texts—No. 2, Darbhanga 1961. この中、前者はギルギット出土の写本（'C'）と略記）を底本にそれと Hodgson がネパールから将来した Cambridge 写本（同, 'B'）及び同じく H. P. Shastri によって（インドに？）将来されたもの（同, 'A'）を対校し、後者はその前者を基に、言わばそれを組換えて再編成したものであるということになる（両刊本の〔編集上の〕相違、特に底本のギルギット写本にはない A, B 両写本の増加部分の取扱い方の違いに

ついては、以下の「凡例」の①の部分参照)。

- 4) R. Ç. Ch. Dās, P. H. Vidyābhūshan, *Samādhirājasūtram*, Calcutta 1896, rep. Shanghai 1940 (第1-12, 15-19の17章。ただし第12, 15の2章は途中まで); K. Régamey, *Three Chapters from the Samādhirājasūtra*, Warsaw 1938, rep. (= *Philosophy in the Samādhirājasūtra—Three Chapters from the Samādhirājasūtra*), Delhi 1990 (第8, 19, 22の3章); Ch. Cüppers, *The XIth Chapter of the Samādhirājasūtra*, Alt- und neuindische Studien, Nr. 41, Stuttgart 1990 (第11章のみ); 松濤誠廉「梵文月灯三昧経」『梵文月灯三昧経 (II)』『大正大学研究紀要』第60, 61輯, 共に昭和50年(第1-7の7章)。これらの中, 最初のDāsとVidyābhūshanのものは前注3)で触れたHodgson将来のB写本(のみ)に拠り(この点に関しては, 筆者披見の再版本は本文のみで前書などが一切ないため, 前注3)のDutt刊本の「序論」[introduction]の説明からかく判断した。因みに, 山田竜城『梵語仏典の諸文献』平楽寺書店, [第2刷]1977年, ではこのことに関連してDutt刊本のB写本〔に当るもの〕を「仏教聖典協会本」の如くに言うが〔103ページ参照〕, もしDutt刊本に従うとすれば, これはDās等の刊本の出版元の‘The Buddhist Text Society of India’を写本の所有者自身と混同したものとということになる), また次のRégameyはそのB写本と他にフランスのBibliothèque Nationale所蔵の3写本, Cüppersはギルギット写本(C)とNGMPP (Nepal-German Manuscript Preservation Project)所集の12写本(の写真), そして最後の松濤氏は同じくC写本(ギルギット写本)と東大所蔵の3写本とに拠ったとのことで, いずれにしても4者とも(前2者のB写本と後2者のC写本以外は)その拠るところ——写本——を異にしている如くである。
- 5) 例えば, 前注4)に示したRégameyの書ではそこ即ち第8, 19, 22の3章に見られるśloka, triṣṭubh-jagatī, dodhakaの3韻律(ただし, Régameyは2番目のtriṣṭubh-jagatīをtriṣṭubhとjagatīに分けているので, 計4つということになる)の指摘とそれらに対する詳しい考察が, また同じくCüppersの研究でもその第11章で用いられているtriṣṭubh-jagatīに対するやや詳しい説明や解釈がそれぞれなされ, 一方松濤氏公刊のテキストでも各偈毎に(若しくは, 韻律が変わるたび毎に)その韻律名が示されている(因みに, 冒頭の帰敬偈の第45偈——この偈〔以降〕は, DuttやVaidyaの刊本には見られないもの——はそこでは‘Śragdharā’〔Śragdharāの誤植?〕とされているが〔梵文月灯三昧経〕, 235ページ(横組みでは10ページ)参照), これは‘Sārdūravikrīḍita’の誤りであろう)。
- 6) 因みに, 前稿執筆の最大の目的の1つであった, 前注2)でも指摘したApteの「韻律表」に見ない(*tt n l g*)と(*m s j b h g g*)の両韻律は3者公刊のどの部分(章)にも含まれていない(このgaṇaに依る韻律名の標記については, 前稿ではただgaṇaの形式〔または内容?〕を示すだけであったが, 本稿ではそれらのgaṇaを括弧で括って表すことにした)。
- 7) この『月灯三昧経』(梵本)の偈頌に関しては, 他に蜜波羅鳳洲(圭之介)氏に,

そこに見られる韻律や仏教〔混淆〕梵語 (Buddhist hybrid Sanskrit) の語形等について部分的に論じた幾つかの論考があるが(例えば、蜜波羅圭之介「月灯三昧経における語形変化の一考察」『印度学仏教学研究』第15巻第2号, 昭和42年, 同「月灯三昧経における連声 (Sandhi) の一考察——外連声 $\hat{e}a$ について——」『印度学仏教学研究』第16巻第2号, 昭和43年, 同「月灯三昧経の偈頌における混淆サンスクリットの一考察——音韻と連声——」『東北印度学宗教学会論集』第3号, 昭和47年, 同「三昧王経の研究(2)——経本文並びに西藏語訳の註釈書・キールティマラー (Kīrtimālā, 称鬘) の和訳, 第II・III章——」『高野山大学論叢』第10巻, 昭和50年, など), 同様の理由から, 前稿では言わば敢えて採上げて言及することはしなかった(し得なかった)。

因みに, 同氏のこれらの論文では一見韻律を基に考察等がなされているようであるが, 結論そのものとはともかくとしても, 当の韻律自体に対する同氏の扱い方や対応の仕方にはいろいろと疑問があり, 問題を残すもののように思われる。例えば, 韻律について言及したりそれを用いて研究をしようとするときには, 先ずその名称と内容(長短の型や音量 [morae] など)を示したり明らかにすることから始めるのが順序であろうが(少なくとも筆者はそう考える), 同氏のこれらの論文ではそれ(ら)についての言及は最初のを除いては一切なく, 言わば突然という形で偈の文に対して(その上に)長短の記号が付され, そしてそれを基に語形の考察等のことがなされている。しかし, いきなりそのような記号(長短調形)が示されても, 果してそれ——韻律型=長短調形——が正しいのかそのことを確かめる手立てはなく, したがってそのようなものに基く立論や結論或いは結果なども結局その根拠を失うということになるのではないであろうか。実際, 例えば上掲の同氏の最後の(4番目の)論文では, *so anumitte bhavati pratiṣṭhitāḥ* なる偈に対して ---|---|---|---|--- という韻律形(長短形)が, また *nidāna śreṣṭhaṃ mayi labdhamadya* については ---|---|---|---, 同様に *dharma prakāṣitu tena jīnā* には ---|---|---|---|---, *bheṣyanti bhikṣu bahu paśca kāle* には ---|---|---|---, そして *bahū jano bhāṣati skandhaśūnyatām* にも ---|---|---|--- の各韻律形がそれぞれ与えられているが(同論文, 132, 136-7 ページを各参照), 実はこのような型(長短調)の韻律は, 少なくとも同氏も参看したと推測される前述の Apte の「韻律表」に拠る限り, いずれも存在しない——そこには見られない——ものであって, つまりそのようなものがどれ程説得力ある議論や主張の根拠になるのであろうかということである(もちろん, Apte の「韻律表」が絶対的でそこに掲出された以外の韻律は全くないということではなく, 実際に前稿で指摘し後にも少しく触れるように, 筆者の想定するところでは '*ttnrg*' と '*msjbgg*' という少なくとも2つの韻律が存在するわけであるが, ただ, もしそのようなものを用いて何かを論じようというのであれば, まずそれを定式化 [formulate] し——例えば, 筆者が行ったように *gaṇa* の形を示すなどして——, その上で議論も展開すべきということになろう。なお, 因

みに、念のために言えば、これらは筆者の考えでは、順に最初の例〔文＝偈〕の *animitte* は *āni*¹⁰ と改めて *indravaṃśa* と、また2番目の例の *śreṣṭhaṃ* と3番目の例の *prakāṣitu* 及び最後の5番目の例の *skandha-* は共にいずれも語頭の2つの子音を単子音的に解し、順に *upendravajrā*, *dodhaka*, *vaṃśastha* [*or vaṃśasthavila*], そして残る4番目の *bhikṣu* も *bhikṣū* と改めて *indravajrā* と、それぞれ見たり解すべきものということになろう。なお、これら *indravaṃśa* などの長短調形については後掲の各韻律名の箇所を参照。また、ここで指摘したのと同様のことは、これの直ぐ前の同氏の3番目の論文の中にも見られる。例えば、同論文の27ページの1), 31ページの5), 34ページの3)〔2つとも〕にそれぞれ掲げられた偈の文とその上に記された韻律型を参照)。

一方、上の4つの論文の中で同氏が唯一韻律の名を出して論及するのは最初のそれであるが、そこでは、2つ掲げる中の *vaṃśasthavila* についてはともかく、もう一方に対しては ‘*upenkavajra*’ という実際にはない——Apteの「韻律表」には見られない、序でに言えば *upenka-* という語自体がサンスクリットにはない(少なくとも一般の辞典には〔見出語としては〕掲出されていない)——韻律名が掲げ与えられている(同論文の878ページ〔横組みでは117ページ〕参照)。のみならず、そこではそれらの韻律型(長短調形)は示されないまま「図に明らかな如く、12音節のものは Skt. の *vaṃśasthavila* 韻と同形であり、11音節のものは同じく *upenkavajra* 韻と同形である」とも言われているが(同上、その「図」では12音節のものには $---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---$ の他に $---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---$ の両形、また11音節のそれにも(末尾音は別にして) $---|---|---|---|---|---|---|---|---|---$ の他に $---|---|---|---|---|---|---|---|---$ の形がそれぞれ掲げられているので、もしそうとすると、該 ‘*upenkavajra*’ はその後者のような2つの韻律型を持ち、また *vaṃśasthavila* も前者のような3つの韻律型を有するか、或いはそれら3者は同形ということにでもなるのであろうか(因みに、同氏の言う ‘*upenkavajra*’ の *upenka-* は恐らく *upendra-* の誤植ということであろうが、それにしても両者の相違はかなり大きい——大き過ぎる?——ので、やや極端ということになるのではないであろうか。他方また、上に指摘したようなこと〔問題点〕は、該 ‘*upenkavajra*’ の誤植云々ということも含めて、それら——韻律名——に韻律型を与えたり示すことによって、その分多少なりとも減殺されるということにもなってくるのではないかとも思われるのであるが、果して如何であろうか。なお、この序で乍ら言えば、同論文の877ページ〔横組みでは118ページ〕に掲げられた韻律型の表の中には *scansion* そのものに誤りが見られるものも幾つか存する〔具体的には、音節の位置を肩付きの小数字で表せば、 $8d^1$, $9b^1$, $9c^1$, $10b^1$ (それに、氏の仕方では $9a^7$ も?) の計4か所(または、5か所?)にそれぞれ誤りが見られる)〕。

この、本経の偈頌の特に韻律を巡っては、その扱いやそれに対する同氏の対応の仕方に筆者として不審に思われることは他にも幾つか存する。例えば、そのような一

つとして、今度は上でも少し触れた4番目の最後の論文に採上げられた次のような3つの挙例の部分について見てみることにしよう（同論文、132ページ参照。なお、同所ではこれらの偈の〔所在の章とその〕番号及び対応する西蔵訳と漢訳の文も一緒に掲げられているが、それらについてはここでは省略）。

- 4) bāladharmapraṭiṣṭhitāḥ
- 5) te bhinnavṛttā vitatha praṭiṣṭhitāḥ
- 6) so tādr̥ṣe dharmanaye praṭiṣṭhito

そして、そこではこれに続いて「上引の用例において、praṭiṣṭhita ... は於格 (L) を必要としており、4) bāladharma = °dharme, 5) vitatha = vitathe (a/m-L-si) であることが知られる。蔵訳もそれを保証している」とも述べられている。すなわち、ここでは praṭiṣṭhitāḥ に先立つ4) の dharmā- 及び5) の vitatha が共に於格に解さるべきであり、そのことは6) の用例によっても確認されるということが主張されているわけであるが、そしてそのこと自体は筆者としても同感で特に異を挟むつもりはないが、ただ、ここで筆者が不審と言うか疑問に思うのは、折角西蔵訳を援用して逆両語の語形について言及し乍ら、何故同氏がテキスト自体にそのこと——於格形（であったこと）——を求めなかったのか、つまり本のテキストではそうになっていた可能性を追求しようとはされなかったのか、ということである。と言うのも、韻律的には praṭiṣṭhita- の前の音は、5) 及び6) の場合には直截に長音であることが要求され、また4) の場合にも少なくとも長音であった可能性は〔多分に!?〕ある——因みに、5) と6) の韻律は triṣṭubh-jagatī (中の共に indravamsā) で当該部分の音節は長く、また4) は sloka の後半部（第4詩句 = d pada）でこちらは音節の長短は任意（自由）ということになる——ということが言い得るからである。のみならず、Vaidya 刊本からは直接には知り得ないが Dutt 刊本を見れば直ちに知られるように、実は4) の dharmā- の語の部分は底本の C 写本にはなく A, B 両写本によって補われたもので、したがってそこ（C 写本）では同語は実際に dharme と於格形で表されていたことも（多分に?!）考えられ、もしそうとすれば、そのような可能性についても探ったり言及し、少なくとも示唆する程度のことは、苟も韻律を扱ったりそれを基に何かをしようなどとするときには、（テキスト〔刊本〕を不可侵のものとして絶対視したりするのでない限り）当然なされて然るべきことのように筆者には思われてならないからである。

以上、前稿を著すときに参看した蜜波羅氏の幾つかの論文や論考の中で、筆者が気付いて疑問や不審に思ったことの中から一採上げて触れてみた。ところで、ここで筆者がこのようなことを指摘したり述べたのは、実は筆者は同氏とは直接には面識がなく、したがって氏に対して個人的には如何なる（特別な）感情をもつ者でもないの、そのようなものに基くものでは決してないということをお断りしておきたい。むしろ、筆者は、氏の高名は以前から窺っており、特に本經の偈頌に関

しては氏が逸早くそれに注目してその仏教梵語的な特徴を言わば Edgerton の欠を補う形で西藏語訳本を援用する等して迄解明しようとされたことに対しては深い尊敬の念を懐く者でもあるが、ただ、こと韻律に関しては、それに対する同氏の扱いや対応の仕方等には若干疑念を覚えるところがあったので、礼を失することになるかもしれないこともある程度は承知の上で、他山の石として自戒の意味も込めて、敢えて苦言のようなものを述べさせて頂いたという次第である。

- 8) この計数は、Dutt 及び Vaidya 両刊本に示されたギルギット写本に対する A, B 両者本の異読をどう捉えるかによって当然違ってくることになるが、ここでは、前稿同様偈の形で掲出されたものは全て別のものとして扱うことにした。因みに、村上(平野)真完氏は本経の偈頌数に関し「主なる増広は、チベット訳…と A、B と共通するもので、偈は百五十…を数える(なお増広を除いた本文全体は二〇六五偈(帰敬偈と縁起法頌を除く)…A と B とに共通する増広は帰敬偈十二と経末の縁起法頌…など十七偈、A のみの増広は帰敬偈に三十偈、第 38 章に十八偈など五二偈ある。B のみの増広は帰敬偈の二偈など七偈ある」とされるが(平野真完「Samadhiraḥasūtra の本文発達について」『印度学仏教学研究』第 14 卷第 2 号, 昭和 40 年, 200 ページ参照), これを筆者の仕方に換言(換算)して言えば、(最後の「縁起法頌」が動くので)本文(=主文)部分には 2,066 偈、また付録(=増加)部分には 225 偈あり、全体では 2,291 偈になるということになる(この後世の増加部分と全体の数値は、筆者のものとはかなり懸隔があることになる。氏がどのようにして特に前者の数値を算出されたのかその根拠は不明であるが、ただ、偈頌の数と言ったものは算定の仕方——それには様々な基準があるわけであるが——によって種々相違が出てくる〔可能性がある〕ものなので、その総数を確定的に言うことに然して意味はないとも言ってもよいであろう)。なお、前稿ではこの数を 2,321½ としたが、Vaidya 刊本の脚注に 1 偈分見落しがあったため、ここではかく訂正しておきたい(因みに、½ という端数は、Dutt 刊本の 432 ページ〔Vaidya 刊本は 207 ページ〕の脚注に掲出された A 写本の増広〔付加〕部分が 2 詩句〔pāda〕即ち半偈分であるということに因る。なお、このような 1 偈の中でも一部分しかないような場合には、例えば第 38 章の第 78 偈の後に A 写本では 9 詩句、また B 写本では 8 詩句分がそれぞれ付加わっているが、Dutt 刊本ではそれらを 2 偈と 1 詩句及び 2 偈と 2 詩句とするのに対し〔623 ページの注 5 を参照〕、Vaidya 刊本では共に 2 詩句とする——したがって、同刊本ではその第 2 偈は A 写本の場合は 5 詩句、また B 写本は 6 詩句を各有するということになる——など〔341 ページの No. 39 の項を参照〕、対応の仕方は両刊本の間でも必ずしも一致せず、異なる場合もあるということを指摘しておきたい。
- 9) 以下に掲げる偈頌の韻律名とその数に関しては、前稿とは異なっている部分も多い。その中、偈頌の総数(と A, B 両写本の増加部分の数)については前注 8) でも述べた通りであるが、その他、韻律の種類に関しては 10) の maṇigūṇanikara と 17) の vegavati の 2 つの名が増え、また各韻律による偈頌の数にはかなり大きな変動の

- あるものがある。これは、韻律名の判断や判定そのものを改めたものもあるが、それ以外にも、例えば同じ1偈の中に複数の韻律が用いられているような場合に（この点については、実際に以下の韻律の内容分析した部分を参照）、偈全体としての名称をどう考えるか、その判定の基準を改めたことに因るものも少なからず存するということを断っておきたい。
- 10) (ギルギット写本にはない、増加部分の)冒頭の帰敬偈は‘0’の番号で表すことにする。
- 11) この点及び“Apteの「韻律表」”については、前注2)を参照。
- 12) 因みに、ここに言う‘gaṇa’とは詩句の文を3音節毎に区切ったときのそれら（及び1つだけ）の音節の長短形のことで（その、gaṇaを表す記号〔文字〕とその長短形の実際については、例えば前掲のApteの辞書のAppendix A: Sanskrit Prosodyの‘I. Introduction’の項〔特に1ページ〕などを参照）、音量[mātrās = morae]を基にしたmātrācchandasの1つとしてのgaṇacchandas——これは全体の音量を4音量ずつに分け、その〔4音量の音節の長短形の〕組合せによって偈を構成するというもの——に言うそれ(gaṇa)とは異なる。
- 13) これら2つの韻律の中、後者の(*msjbg*)については、多少不規則なものも存するが別の韻律形を想定する——せざるを得ない——程規則性はない（同じ型のもの数は少ない）ので、これ1種だけでその変種形はないと考えてよいであろうが、前者の(*ttnrg*)に関しては、それ以外に第1音節及び第5音節が（一方若しくは両方とも）短音の(*jt nrg*)、(*tbh nrg*)、(*jbh nrg*)という都合3つの変種形があったように思われる。その中、最初の(*jt nrg*)と(*ttnrg*)の関係はちょうど（第1音節の長短のみが異なる）upendravajrāとindravajrā、またはvaṃśasthaとindravāṃśaのそれに対応するもので、実際に4詩句全てがその(*jt nrg*)で表されているようなもの（偈）も幾つか見られる。それに対して(*tbh nrg*)と(*jbh nrg*)の2つについては、4詩句とも同じというものはなく他との混合形ということになるが、いずれにしても、単なる写誤や校訂ミスなどとするにはその数はやや多い——多過ぎる——ように思われるわけである。その、特に(*tbh nrg*)と(*jbh nrg*)の2つも独立した別個のものとするの当否についてはともかく、ここではそれら及び(*jt nrg*)の場合も含めて（代表的に）この(*ttnrg*)で表すことにした。
- 14) 例えば、puṣpītāgrāで冒頭の（短音の）2音節が長音になって——融合して——いる場合や、また下の⑨で採上げて言及するdodhakaの例のような場合など。
- 15) この点については、その他にも、例えば同じ種類の韻律で同じ型の不規則形であっても、該「韻律表」に見えないために敢えて指摘・言及しなかったというものも幾つか存する。
- 16) このutthāpanīの韻律に関しては、名称や（それとpramitakṣarāの混合韻律の）称呼の件も含めて、拙稿「梵文（断簡）『諸法無行経』の偈頌の韻律」『印度学仏教学研究』第52巻第2号、平成16年、参照。

- 17) 前稿では、実際にそのようなものの多くはそう判断し、mātrāsamaka とした。前稿で mātrāsamaka の数が多く反対に dodhaka は少なかったのは、一つにはそのような理由にも因る。
- 18) Dutt 刊本は本文部分を帰敬偈の A, B 両写本の共通部分——両方の写本にある部分——から始めるため、第 1 章は第 15 偈から始まる。そのため、Vaidya 刊本とは 14 番のずれがある。
- 19) この部分は、Dutt 刊本では本文とされていて、偈頌には番号も付されている。
- 20) 以上の他に、松濤氏によると、帰敬偈? の P 写本の (A, B 両写本等にはない) 増広部分には nardataka に拠る 1 偈が含まれている (前注 4) に所掲の「梵月灯三昧経」の 235 ページ [横組みでは 10 ページ] を参照)。そこで、もしそれも加えると、最も新しいもの (写本) 迄含めた本経テキストの偈頌で用いられている韻律は少なくとももう 1 つは増えるということになろう。
- 21) その意味では、それら 1 詩句だけの韻律の型を示すのに 4 詩句が同じものであることを表す 'x4' の語 (記号?) を記すのは無意味でむしろ不適切ということにもなるかもしれないが、しかしここではその韻律が 4 詩句とも同じ samavṛtta の意で、この語? も加えることにした。
- 22) この bhāminī の韻律型 (長短調形) は、Apte の「韻律表」では (gaṇa の形で) 'bh bh bh bh' の如くとされている。もしこれをそのまま字義通りに取れば、これの最後の音節 (末尾音) は短音 (でなければならぬ!?) ということになるが、ここでは、他の多くの韻律同様この場合にも末尾音は (短音の場合も含むという意味での) 長音を——すなわち、これの gaṇa も実際には 'bh bh bh r' を——表すと見ることにした (因みに、該「韻律表」には 'bh bh bh r' なる形のもの [gaṇa = 韻律型] は掲出されていない。また、本経中のこの韻律による偈の部分の中には実際に末尾音が長音になっているもの [詩句] も幾つか見られる)。
- 23) śloka と triṣṭubh-jagatī に関しては、これらをどう捉えるかということについてもちろんいろいろと問題はあがるが、ここでは暫く samavṛtta の中に含めておくことにする。